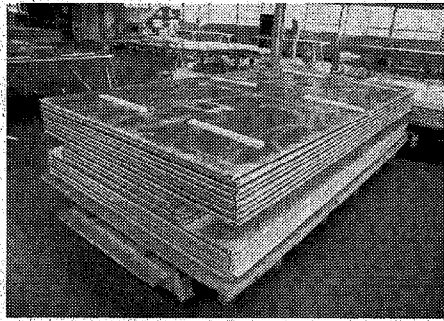


日刊工業新聞(7面)



新幹線の床下材に使うアルミハニカムパネル

神鋼ノースが用途拡大  
液晶製造装置用など開拓

神鋼ノース(茨城県かすみがうら市、遠山茂幸社長、0299・59・4111)は、建築資材や新幹線の床下材などに使うアルミハニカムパネルの用途開拓を進める。

液晶パネル製造装置や加工機向けの定盤、建設現場向けの防音パネルなどに納入先を広げる。鉄道車両向けでも新幹線に続き、在来線車両向けにも提案する。

アルミハニカムパネルは、無数の六角形が蜂の巣状に並んだアルミコア(芯材)をアルミ板で挟み接合した材料。体積の95%以上が空気層のため軽量で、高い強度や剛性、平滑性が得られる。新用途として液晶製造装置や加工機向けの定盤でアルミ製の需要が高まっている。「精密ハニカム定盤に関するノウハウが確立し、数社から注文が入っている」(松本友伸取締役生産本部長)。今後も、エレクトロニクス関連での需要拡大を見込んでいる。

産業新聞(2面)

神鋼ノース

アルミハニカムパネル

鉄道向け拡販  
建築分野と並ぶ柱に

神鋼ノース(本社||茨城県かすみがうら市、遠山茂幸社長)は主力製品のアルミハニカムパネルについて、鉄道車両向けの拡販を目指す。現在、同社のハニカムパネルの売上げの大半はひさしや屋根、シェルターなどの建築土木分野向け

で、鉄道車両向けは新幹線の床材が中心。今後は強度を引き上げるなどして在来線など新幹線以外の車両での採用を図る。将来的にはハニカムパネルの売上に占める建築向けと鉄道車両向けの比率をほぼ同じにしたい考えだ。

アルミハニカムパネルはハニカムコアと呼ばれるハチの巣状の箔とアルミ板を接着剤で接合した製品。体積の95%以上が空気層で構成されているため、同じ強度を持つ鋼板の10分の1、アルミ板の5分の1の重量で済む。新幹線の床材には以

前は鉄が使われていたが、ハニカムパネルを使用すると「1車両当たり約1トンの軽量化が図れる」(遠山社長)ため、90年代から採用が広がった。現在走行中の東海道新幹線の床材の約40%に同社のハニカムパネルが採用されているという。

今後は新幹線以外の在来線の床材についても採用を目指す。そのためにも不可欠なのが強度の向上。神鋼ノースではハニカムコアの形状をハチの巣状からコルゲート(波状)に変えたり、2枚の表面板のうち片方を発泡材やカーボンにするなどの提案を行っている。神戸製鋼所グループとしてさまざまな開発をしている強みを生かしたい(同)考えた。併せて一層の軽量化も進め、在来線需要の取り込みを図る。現在同社の売上高の

約半分がハニカムパネル製品。このうち鉄道車両関連は10%程度にとどまっているが、将来はアルミハニカムの売上げを建築土木向けと鉄道車両向けで半分ずつ分け合う形にしたい考えだ。

鉄鋼新聞(6面)

神鋼ノース  
アルミハニカムパネル  
IT、輸送分野に拡販

神戸製鋼所の100%子会社で、アルミハニカムパネル・精密加工品などを手がける神鋼ノース(社長・遠山茂幸氏)は、液晶パネル製造装置向けやアルミ車両向けなどIT・輸送分野でのハニカムパネルの拡販を図る。

IT分野では液晶パネル自動製造装置向けの定盤用途で使用できる平坦度の高いハニカムパネルを開発し、引き合いも増えている。ハニカムパネルの定盤は、石製に比べ97%、鉄製に比べ96%の軽量化が可能で、スマートフォン向けのガラス基板などの製造装置向けで需要拡大が見込まれる。また、輸送分野では新幹線の床材の他に一般車両向けに現在よりも高強度で軽量なハニカムパネルの開発なども進めていく。

鋼ノース(社長・遠山茂幸氏)は、液晶パネル製造装置向けやアルミ車両向けなどIT・輸送分野でのハニカムパネルの拡販を図る。IT分野では液晶パネル自動製造装置向けの定盤用途で使用できる平坦度の高いハニカムパネルを開発し、引き合いも増えている。ハニカムパネルの定盤は、石製に比べ97%、鉄製に比べ96%の軽量化が可能で、スマートフォン向けのガラス基板などの製造装置向けで需要拡大が見込まれる。また、輸送分野では新幹線の床材の他に一般車両向けに現在よりも高強度で軽量なハニカムパネルの開発なども進めていく。